

## 第11回国診協現地研究会に参加して

岡山県国民健康保険団体連合会事務局長

岡本敏男

日本列島を覆う厚い雨雲が切れると、どうやら北海道の上空を飛行しているようである。間もなく“着陸”のアナウンスで窓外に目をやると、緑のジュータンを敷いたような草原の風景があった。

筆者の北海道訪問は今回で三度目であるが、国診協の主催する地域医療現地研究会の参加は今回が初めてである。それにしても帯広は広い。飛行機で草原のように見えたのは整然と区画された、とにかく広いジャガイモとビートの畑であった。明日からの2日間、この広大な帯広の地で地域医療と福祉活動に情熱をもやしておられる方々と施設を見せていただけたらと思うと、何か期待に胸が膨らむ思いであった。宿泊ホテルのノースランド帯広では北海道国保連合会の職員が笑顔で迎えてくださり、テキパキとした応対で受付をすませた。

さわやかな帯広の朝を迎えた。ホテルの部屋から見える帯広駅前、朝の7時30分というのに車も人の通行もなく、閑散としていた。8時を過ぎると少し人の動きが見えたが何となく時がゆっくりと流れているのを感じる。

### ◆現地関係者の心温まる歓迎

9時30分に宿舎前から参加者180名がバス4台に分乗して、最初の視察施設である大樹町福祉センターに向かった。大樹町の福原町長から歓迎のあいさつを受けた後、今回の視察対象となった各施設の国保病院の院長先生から施設の概略説明を聞いた。

大樹町の国保病院と福祉施設を皮きりに広尾町、芽室町と回り各施設を見せていただいたが、どの

施設の職員の方も大勢の視察者に十分な配慮をしながら施設の説明をされたが、質問にも丁寧に答えておられた姿に感謝の念を強くした。どの施設も、玄関口に歓迎・全国国保診療施設現地研究会の看板が立てられており、心温まる思いであった。

芽室町の特別養護老人ホームを見せていただいた時のことであるが、若い看護婦さんが入所者を一人ひとりイスに座らせて、これから何かのゲームを始めようとしている光景に出合った。40人程の視察者が取り囲んでいたが、その看護婦さんがこちらに目を向けて、人垣のほうに近づき声をかけた。「〇〇さんオシッコでた」、人垣の後ろで遠慮がちにたたずんでいた女性の入所者の手を引いてゲームの輪に入ってしまった。

それだけのことであるが今もその若い看護婦さんの笑顔と真剣な眼差しがまぶたに焼きついている。職業だからと言ってしまえばそれまでかもしれないが、若くて、情熱を持った貴重な介助者の存在感をかいま見せてもらったように思う。

### ◆地域の特性を知ることがカギ

今回の現地研究会を通じて感じたことは施設間をバスでめぐりながら、その土地の生活感覚を体感しながらの視察に意義があったように思う。

広大なビートの畑をトラクターでの除草、そのかたわらでクワを使う奥さんとおぼしき女性の姿、向こうのあぜ（遠くて見えない）まで行くのにとれほどの時間がかかるのか。ノンビリと草をはむ牛のむれ。ガイドさんが帯広の水は日本一おいしいですよ、日高山脈の伏流水なんですよ、ぜひ飲

んで帰ってくださいと、しきりに勧めていただいた水。そして午前8時を回っても、閑散としていた帯広駅前の風景。夏と冬の温度差が50度以上にもなる土地柄等々。

全体討議のテーマ「広域過疎地における地域包括ケアの問題点」—北海道の現状と方向性—は、まさにその土地の歴史と特性と住民の生活感を知ることが問題点の理解につながることを実感させられた。意見発表で北海道の地理的、歴史的な面からその特殊性を説明された各病院の院長先生の言葉も心に残る。

「開拓という歴史性からか親子関係に希薄さがあるように思われる。子供には世話になりたくないという風土がある」

「地域包括ケアは病院が核となるべきでは……。在宅は施設が完備して初めて可能となる、1円の黒字で結構、大幅な黒字は必要ない」

「サービスは早目に手を打つ。たとえば脳疾患の退院者が出たとき、婦長をはじめ関係者がその

ケアについて十分な方向性を持つ、住民の声を大切に、家族の声を大切に——等々。それはまた地域医療が抱える問題点の原点と思う」。

#### ◆ともに直診の仲間としての意識を

全体討議でフロアーからの活発な問題提起を聞いて、全国の過疎地で今日も地域医療に精一杯の情熱を燃やしておられる関係者の方々が、この現地研究会に参加され、ともに仲間としての意識を醸成し、意欲と活力を感じられる機会としていただきたいと思う。

今回の視察を通じて、保健と医療と福祉の統合化が、もはや言葉だけのものであってはならないことを体感することができた。

最後に、研究会の開催にあたり、北海道国保連合会の職員が携帯電話を駆使して裏方を務めておられる姿に接し、同じ国保連合会職員として晴れがましくも心強く感じた次第である。